

けが・事故等に関する調査の実施状況について

1. 調査実施の基本的考え方

- (1) 行政や警察、消防が保有している既存データについては、先行して収集・分析を行う。
- (2) 区民へのアンケート等により調査する必要があるデータについては、できる限り各部局で予定されている調査を活用する。
- (3) 新たに区民アンケート調査等を行う場合には、定期的実施することを念頭に内容・スタイルを十分検討するとともに、調査の実施が地域のコミュニティづくりや気運の醸成につながるかたちでの実施を図る。
- (3) 認証申請に必要な「外傷サーベイランスの仕組みづくり」については、学識経験者や医師会等の関係者の参画を得た、「(仮称) 外傷サーベイランス検討委員会」を新たに設置して検討を進める。

2. 主な既存データの収集・分析

- (1) 人口動態統計による死亡要因に関する分析
- (2) 犯罪、交通事故に関するデータ分析（警察からの情報提供）
- (3) 救急搬送に関するデータ分析（消防からの情報提供）

3. セーフコミュニティ連絡調整部会（第1回 3月11日開催）による調査

- (1) 区の施設及び事業等における事故・けがに関する調査
 - (2) セーフティプロモーションの実施状況に関する調査
- ※3月30日を期限に実施中（各部ごとにとりまとめ）

4. 一人暮らし高齢者等実態調査に合わせた「けが・事故に関する調査」

- (1) 対象 65歳以上の一人暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯（約27000世帯）
- (2) 合わせて実施する調査内容……別紙のとおり
- (3) 3年に一回実施予定

5. その他、現時点での検討事項

- (1) 子どものけが・事故に関するアンケート
（小中学校、幼稚園、保育園等の保護者、乳幼児健診時のアンケート等）
- (2) 「協働のまちづくりに関する区民意識調査」に合わせた調査
（企画課、3年に一回、体感治安など広く意識を調査）
- (3) 自転車駐車場利用者に対する交通安全に関するアンケート
（交通対策課、「豊島区自転車等の利用と駐輪に関する総合計画」改定）
- (4) 民間事業所、職場における外傷関係のデータの収集

豊島区は世界保健機関が推進する「セーフコミュニティ」に取り組んでいます

高齢者のけが・事故に関する調査

●室内等でのけがや事故が増えています

65歳以上の方の死亡事故（転倒、溺死、窒息、火傷）の状況を見ると、最近5年間で144人の方が亡くなっています。これは交通事故による死亡43人の3.3倍です。

死亡事故は氷山の一角であり、入院や外来受診される方は、その何百倍以上もいると見られています。

また、介護が必要となった理由を見てみると、女性の約15%、男性でも約6%の方が、転倒による骨折等が原因で要介護となっています。（国調査）

●けがや事故は予防が大切です

今後、高齢化が急速に進むなか、がんなどの病気だけではなく、高齢者の“けが”や“事故”の予防は大変重要な課題です。

“けが”や“事故”はその時だけではなく、その後の生活にも大きな影響を残してしまう場合もあります。健康で豊かな毎日を過ごすためには、“けが”や“事故”にあわないように、予防を心がけることが何より大切です。

豊島区では、いま、WHO（世界保健機関）による「セーフコミュニティ」の認証取得を目指しています。

セーフコミュニティとは、「けがや事故等は、偶然の結果ではなく、予防できる」という考え方のもと、地域コミュニティの力で、安全と健康の質を高めていくまちづくり活動です。



●調査にご協力をお願いします

今後、セーフコミュニティ活動に取り組むなかで、効果的な予防対策を検討していくためには、皆さんのけがや事故の状況を調査し、その原因を究明することが必要です。皆様のご協力をお願いします。

高齢者のけが・事故に関する調査

最近1年間くらいに経験したことについてお聞きします。

あてはまる に 印をつけてください。

1、最近1年間くらいに 自宅で転んだことがありますか

ない

ある

場所はどこですか（複数可）

階段

居間

寝室

台所

玄関

浴室

その他

けがの状態について（複数回答可）

けがはしなかった

骨折

打撲（打ち身・皮下出血）

すり傷・切り傷

その他

2、最近1年間くらいに 自宅でやけどをしたことがありますか

ない

ある

何がやけどの原因ですか

お風呂の湯・シャワーの湯

やかん・ポットの湯

たばこ

コンロの火

暖房機（ホットカーペット・湯たんぽ・カイロを含む）

その他

3、最近1年間くらいに 自宅で食べものをのどに詰まらせたことがありますか

ない

ある

4、最近1年間くらいに 自宅で入浴中におぼれそうになったことがありますか

ない

ある

5、最近1年間くらいに 外出中に事故にあつてけがをしたことがありますか

ない

ある

危なく事故になるところだった

歩行中

自転車に乗
車中

何が事故の原因ですか

自転車との接触

自動車・バイクとの接触

歩行者との接触

看板や電柱などの障害物

階段・段差があった

穴・凹凸・傾斜があった

その他

6、あなたの年代は

65～69歳

70～74歳

75～79歳

80～84歳

85歳以上

7、あなたの性別は

男性

女性

ご協力ありがとうございました

一人暮らし高齢者等実態調査及びアウトリーチ事業の実施について

1 目的 一人暮らし高齢者等の生活実態や健康状態を把握することにより、それぞれの状況に応じたサービスの提供に結びつけるとともに、ハイリスク高齢者に対しては見守りを行い、社会からの孤立や孤独死の防止を図る。

2 内容

(1) 一人暮らし高齢者等実態調査

① 調査対象	65歳以上の一人暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯	27,073世帯
	(平成22年1月1日現在 住民基本台帳による。)	
(内訳)	65歳以上の一人暮らし高齢者世帯	19,049世帯
	65歳以上の高齢者のみ世帯	8,024世帯

② 調査方法

- ① 65歳～75歳未満 **区による郵送調査**
住民基本台帳より対象者を抽出し、実態調査票を対象者宅に郵送する。
- ② 75歳以上 **民生・児童委員による訪問調査**
民生・児童委員が対象者の自宅を訪問し、聞き取り調査を行う。

③ 調査項目

- 健康状態 ○緊急時連絡先 ○介護状態 ○友人知人等と会い会話をする頻度
○世帯状況 ○住居状況 等14項目

④ 調査結果の活用

調査結果は、区・高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）・民生・児童委員が共有し、地域での見守り活動等に活用する。

(2) アウトリーチ事業

- ハイリスク高齢者に対する見守りを行う。
○高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）に配置される訪問専任職員が、民生・児童委員だけでは対応が困難なケースの支援に当たる。
○平成22年度はモデル的に実施する。

3 経費 28,875千円 (内訳) ①実態調査 臨時職員人件費等4,875千円
②アウトリーチ事業 専任職員人件費24,000千円

4 今後のスケジュール

